

表 4(16) サンドリサイクル・サンドバイパス実施事例

番号・海岸名	11-3. 鹿嶋海岸（神向寺海岸）
地方	関東
管理者	茨城県
事業形態	養浜工(2005/12)
養浜量、粒径	0.7万 m ³ /年 d50=2~13mm
養浜方法	不明
費用負担	茨城県

実施場所

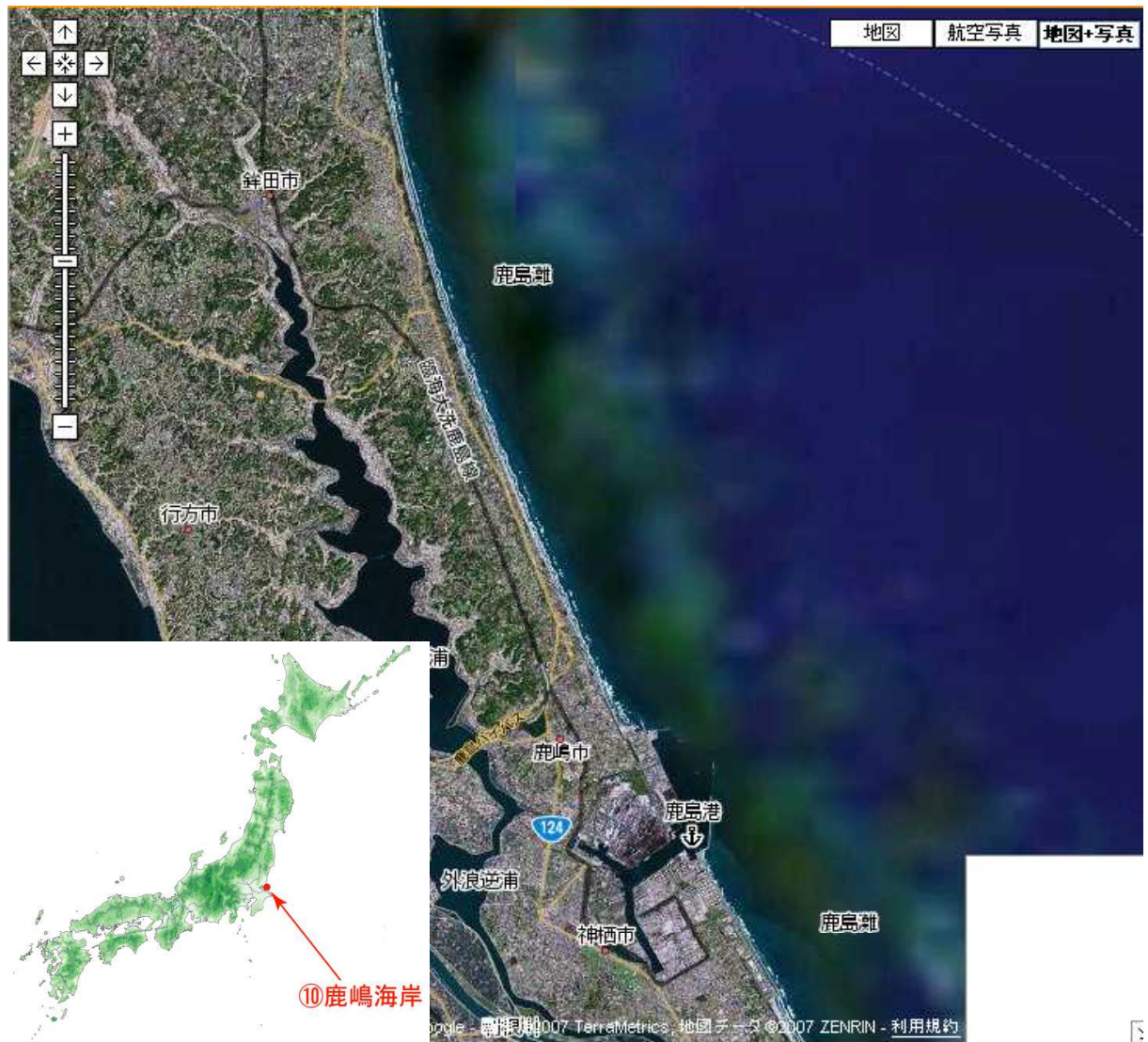


表 4(17) サンドリサイクル・サンドバイパス実施事例

番号・海岸名	12. 波崎海岸
地方	関東
管理者	茨城県
事業形態	①サンドリサイクル(2001～2002) ②サンドリサイクル
養浜量、粒径	①13万 m ³ /年(2001～2002) , 粒径は不明 ②13万 m ³ /年, 粒径は不明
養浜方法	①鹿島漁港・波崎漁港浚渫→陸上輸送→海岸投入(2001～2002) ②波崎港浚渫→中継所→海岸投入
費用負担	①茨城県 ②漁港管理者(茨城県)：中継所～投入まで 港湾管理者(茨城県)：浚渫～中継所まで

実施場所



表 4(18) サンドリサイクル・サンドバイパス実施事例

番号・海岸名	13-1. 富士海岸
地方	中部
管理者	中部地整
事業形態	①サンドバイパス ②養浜工（1988, 1999） ③養浜工（1991）
養浜量、粒径	①3万 m ³ /年，粒径は不明 ②3万 m ³ /年（1988, 1999），d50=38mm(5~200mm) ③1.5万+1.6万 m ³ /年（富士工区、吉原工区），d50= 50~150mm
養浜方法	①田子の浦港浚渫→港湾下手側 ②③不明
費用負担	①海岸管理者(中部地整)：全額 港湾管理者(静岡県)：運搬担当 ②③中部地整

実施場所



表 4(19) サンドリサイクル・サンドバイパス実施事例

番号・海岸名	13-2. 富士海岸（吉原工区）
地方	中部
管理者	中部地整
事業形態	養浜工(2002)
養浜量、粒径	不明
養浜方法	富士山大沢扇状地の発生土砂を改良→養浜材に再利用
費用負担	中部地整

実施場所



©2007 DigitalGlobe, TerraMetrics, 地図データ ©2007 ZENRIN - 利用規約

表 4(20) サンドリサイクル・サンドバイパス実施事例

番号・海岸名	14. 駿河海岸
地方	中部
管理者	中部地整
事業形態	サンドバイパス(1983～)
養浜量、粒径	6～10万 m ³ /年 d50=12mm
養浜方法	大井川港浚渫→陸運→海岸投入
費用負担	海岸管理者(中部地整)：なし 港湾管理者(大井町)：全額(投入まで)

実施場所



表 4(21) サンドリサイクル・サンドバイパス実施事例

番号・海岸名	15. 浅羽海岸（遠州灘沿岸）
地方	中部
管理者	静岡県
事業形態	サンドバイパス(2004～)
養浜量、粒径	不明
養浜方法	パイプラインを用いたサンドバイパス施設の設置
費用負担	水産基盤事業(静岡県)：航路浚渫、運搬投入（折半） 侵食対策事業(静岡県)：運搬投入（折半）

実施場所



表 4(22) サンドリサイクル・サンドバイパス実施事例

番号・海岸名	16. 西南海岸
地方	中部
管理者	中部地整
事業形態	試験養浜(1997~2000,2003)
養浜量、粒径	1.5 万 m ³ /年, d50=1.0mm 養浜量 不明, d50=25mm
養浜方法	不明
費用負担	中部地整

実施場所



表 4(23) サンドリサイクル・サンドバイパス実施事例

番号・海岸名	17. 阿津里浜地区海岸
地方	中部
管理者	三重県
事業形態	養浜(2000,2001)
養浜量、粒径	養浜量 61900m ³ , 粒径 : 不明
養浜方法	岸側へ投入
費用負担	三重県

実施場所



表 4(24) サンドリサイクル・サンドバイパス実施事例

番号・海岸名	18. 久美浜海岸
地方	近畿
管理者	京都府
事業形態	サンドバイパス
養浜量、粒径	0.4 万 m ³ /年, 粒径は不明
養浜方法	近隣河川浚渫→投入
費用負担	京都府

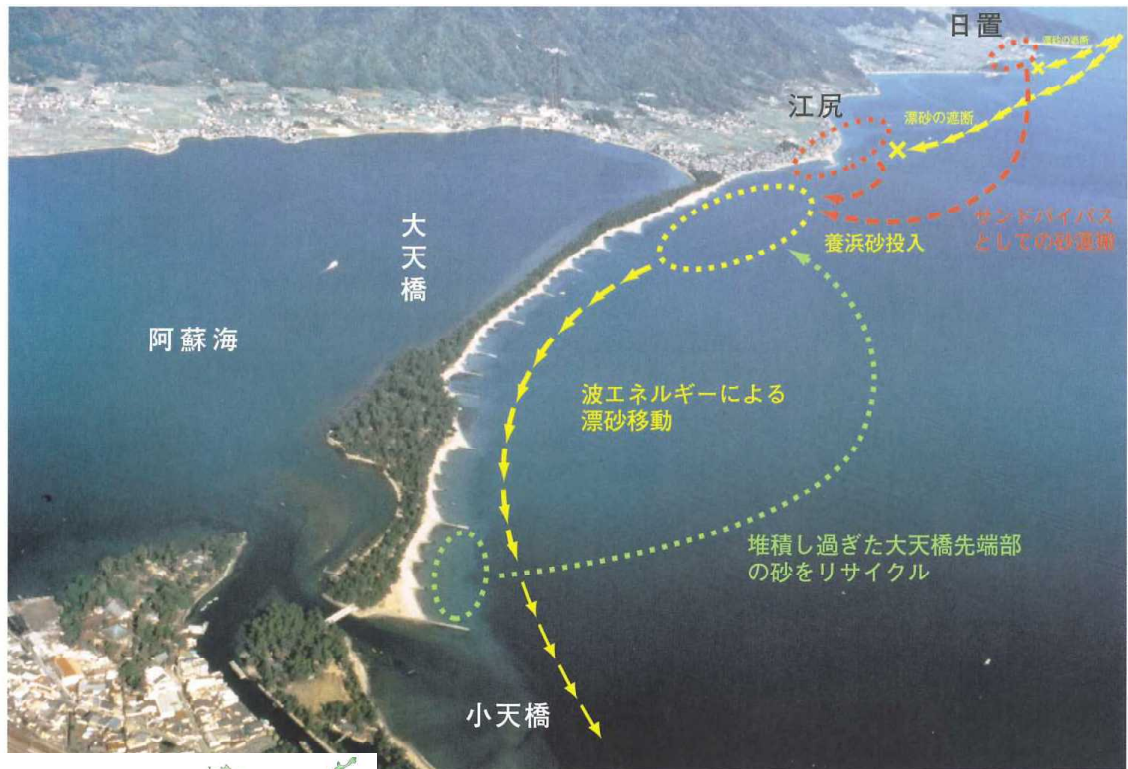
実施場所



表 4(25) サンドリサイクル・サンドバイパス実施事例

番号・海岸名	19. 天橋立海岸
地方	近畿
管理者	京都府
事業形態	サンドバイパス(1980～1990)
養浜量、粒径	12万 m ³ /年, 粒径は不明
養浜方法	日置港浚渫→陸運→海岸投入
費用負担	港湾管理者(京都府): 全額

実施場所



※京都府ホームページより抜粋

表 4(26) サンドリサイクル・サンドバイパス実施事例

番号・海岸名	20. 福部・湯山海岸
地方	中国
管理者	鳥取県
事業形態	平成 13 年 5 月に船舶が座礁。その後の航路浚渫で養浜を実施。 本格的なサンドリサイクルは、2004 年度から実施。 (鳥取沿岸の総合的な土砂管理ガイドラインを策定・公表 2005/06)
養浜量、粒径	d50=0.2mm 程度
養浜方法	鳥取港、千代川河口浚渫→養浜
費用負担	鳥取県
実施場所	

表 4(27) サンドリサイクル・サンドバイパス実施事例

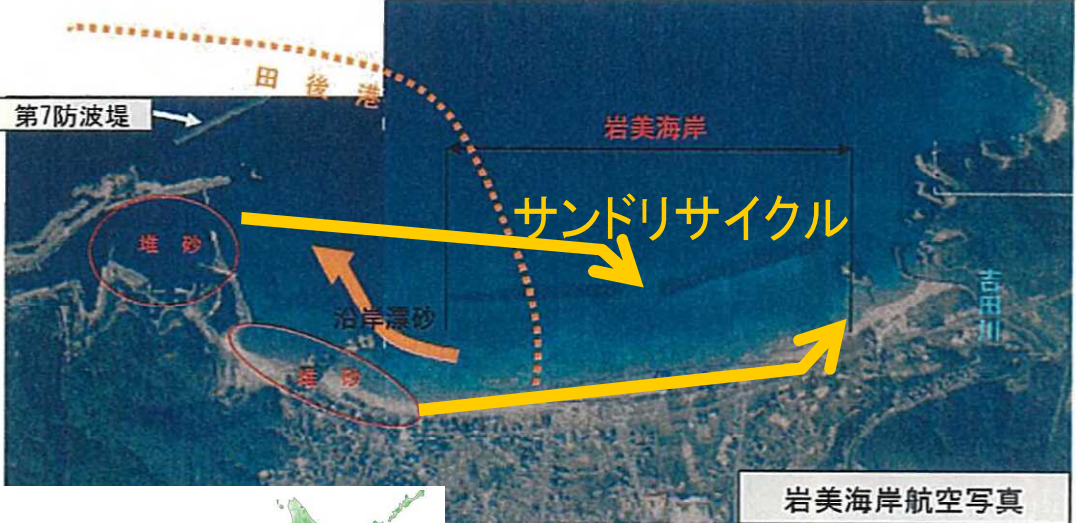
番号・海岸名	21. 岩美海岸
地方	中国
管理者	鳥取県
事業形態	第7防波堤の完成前から港内堆積砂が顕著になり、浚渫する必要が生じた。 昭和60年頃から、田後港から牧谷方面（吉田川付近）へ試行的な養浜を実施。 本格的なサンドリサイクルは、2005年度から実施。 （鳥取沿岸の総合的な土砂管理ガイドラインを策定・公表 2005/06）
養浜量、粒径	d50=0.2mm 程度
養浜方法	田後港浚渫→養浜
費用負担	鳥取県
実施場所	 <p>岩美海岸航空写真</p>

表 4(28) サンドリサイクル・サンドバイパス実施事例

番号・海岸名	22. 皆生海岸
地方	中国
管理者	中国地整
事業形態	サンドリサイクル
養浜量、粒径	3万 m ³ /年, 粒径は不明 (初期値で人工リーフ1基整備毎に0.5万 m ³ 減らす)
養浜方法	境港浚渫→陸運→海岸投入
費用負担	海岸管理者(中国地整): 全額 港湾管理者(境港管理組合): なし

実施場所

